

令和7年度事業報告

1 概要

【概況】 2025（令和7）年は會津八一記念館が西船見町に開館してから50周年を迎える節目の年となった。これを機に、50周年記念事業開催のため、必要となる経費をクラウドファンディングで調達し、「新潟県人物小伝 會津八一」の出版、「會津八一記念館50年の歩み」、「同詳細資料編」の刊行、著名講師5人による連続講演会などの事業を展開した。4回の展覧会にも「開館50周年」の副題を付し、誘客を図ったが、展示に対する高い評価とは裏腹に来館者数は5233人と前年比142人減となった。団体の見学が減少したほか、猛暑と降雪にも影響を受けたといえる。

【特別展】 令和7年は東洋美術史学者として活躍した八一の業績の一端を「博士の愛した中国美術 會津八一とコレクション」で紹介した。八一は東洋美術の本質を学生に伝えるため、私費を投じて古代中国の明器、鑑鏡・瓦磚などの実物資料を購入し、膨大な會津コレクションを形成した。開館50周年を記念し、これらを収蔵する姉妹館の早稲田大學會津八一記念博物館に出品いただいたほか、八一が通った古美術商との関りを示す資料も展示した。充実した展示物で多数の来館者を期待したが、2000人弱にとどまった。

【企画展】 春は文字通り、「會津八一記念館の半世紀」。記念館がこれまでに購入したり、八一ゆかりの人たちや愛好家から寄贈、寄託を受けたりした作品を紹介したほか、過去に開催した記憶に残る展覧会ポスターも多数掲げた。夏は「會津八一晩年の輝き」。終戦間際の空襲で東京の住居と万卷の書や資料を失い、失意のうちにふるさと新潟へ帰郷した八一が、1956（昭和31）年に亡くなるまでの10年余りの間、歌集編纂、書の制作に勤しむ傍ら、夕刊新潟社社長として地元新潟の文化振興に努め、新潟市名誉市民に選ばれた活躍ぶりを紹介した。冬は「ベストオブ會津八一」。春の企画展から来場者にアンケートを実施、人気の高かった書と歌の作品をランキング形式で展示した。

【連続講演会】 開館50周年を記念し、各界の著名講師を招き、5回の連続講演会を開催した。會津八一の書を研究する角田勝久新潟大学教授、八一が愛した奈良からは興福寺寺務老院の多川俊映師、八一研究の第一人者・大橋一章元早稲田大學會津八一記念博物館館長、平安からの書の歴史を語った笠嶋忠幸出光美術館学芸部長、最終回は野中浩俊当館館長が「文人 會津八一の魅力」で締めくくった。

【八一祭（7月31日）】 高校生拓本大会も3回目を迎え、手際もよくなり、短時間でも採拓できるようになった。昨年に続き、市外の高校からの参加もあり、生徒同士の交流にもつなげることができた。

【写真コンテスト】 19回目を迎えた「秋艸道人賞・写真コンテスト」には全国16都府県から132点の応募があった。応募点数は昨年よりわずかに減少し、審査員からは辛口の評価もあった。

【普及活動】 春の企画展では、講演会に代えて、「會津八一記念館学芸員が語る展覧会の裏側」を開催。元学芸員と現職学芸員の3人が展示に隠された舞台裏の苦悩や喜びを語り、展示への理解と関心を深めてもらった。

2、事業の内容

（ア）展覧会事業

常設展経費 3,005,013 円（6年度=2,891,772 円=比4%増）

特別展経費 4,893,856 円（6年度=3,998,751 円=比22%増）

	6年度 入館者数	6年度 開催日数	6年度 入館累計	7年度 入館者数	7年度 開催日数	7年度 入館累計
4月	256	25	256	273	26	273
5月	348	27	604	487	28	760
6月	241	20	845	274	19	1,034
7月	476	26	1,321	416	27	1,450
8月	455	27	1,776	414	27	1,864
9月	572	26	2,378	388	19	2,252
10月	866	27	3,214	751	27	3,003
11月	837	26	4,051	940	26	3,943
12月	274	17	4,325	299	24	4,242
1月	283	24	4,608	342	24	4,584
2月	265	24	4,873	257	24	4,841
3月	502	20	5,375	392	19	5,233
合計	5,375	283		5,233	283	

7年度観覧料収入=総額 1,637,760 円（前年度比 320 円増）

特別展：623,960 円（同 10,260 円減）常設展：1,013,800 円（同 10,580 円増）

【特別展】

會津八一記念館開館 50 周年記念 會津八一とコレクションー博士の愛した中国美術ー

会 期：令和 7 年 1 0 月 1 日（水）～1 2 月 7 日（日） 開催日数 60 日間 図録 119 冊販売

会 場：新潟市會津八一記念館

入館者数：1, 8 9 2 人（前年度＝「會津八一と大和路 入江泰吉・杉本健吉とともに」1, 9 0 0 人）

主 催：公益財団法人會津八一記念館、新潟市、新潟日報社、BSN 新潟放送

特別協力：（株）壺中居、（株）繭山龍泉堂、繭山順吉資料室、早稲田大学會津八一記念博物館、

協 力：浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、葵酒造

後 援：朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、

日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局、

NHK 新潟放送局、NST 新潟総合テレビ、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21

歌人、書家の會津八一は東洋美術史学者として長年、早稲田大学の学術研究の発展に貢献してきた。八一が早稲田大学文学部で東洋美術史を担当する際、古代中国のお墓に埋めていた明器をはじめ、鏡・瓦、拓本など古美術品を骨董商から数多く購入し、膨大なコレクションが誕生する。特別展では、八一が早稲田大学の美術史教育と研究のために私財を投じて集めた古代中国の美術品とともに、交流のあった古美術商が所蔵する八一の墨蹟も紹介した。

来館者からは「八一が収集した中国の古美術を見ることができてよかった」「『壺中居』の看板に圧倒された」（複数回答）また「東洋美術陳列室の由来」を読んで八一が苦労して古美術品を収集したことに感銘を受けたなど、来場者には大変満足 of いく内容ではあった。だが、展示品が中国の明器や金石拓本など専門的な分野であったために、大衆向けではなかったかもしれない。そのため入館者数 2000 人を超えることができず、前年度とほぼ同数となった。

【企画展】

① 開館 50 周年記念-コレクションでたどる-會津八一記念館の半世紀

会 期：令和 7 年 4 月 1 日（火）～6 月 22 日（日）

開催日数：72 日間 簡易図録 106 冊販売

入館者数：1, 0 3 4 人（前年度＝春「會津八一と秋草堂に集う文化人たち」8 4 5 人）

開館 5 0 周年を記念し、八一と交流のあった関係者が当館に寄贈した八一の墨蹟作品を旧蔵者のコレクションごとに展示した。また、八一が所蔵していた恩師小泉八雲の随筆「In the Dead of the Night（真夜中に）」の英文原稿を初公開。八雲の三男清に宛てた八一書簡も展示し、家族ぐるみの交流を紹介した。加えて、過去に開催した主な展覧会ポスターを一挙掲示し、50 年間の展覧会活動も振り返った。来館者アンケートでは「會津先生との関りのある人物別に展示してあり、人間味がよく分かる。お人柄が伝わってきた」「小泉八雲の原稿はなかなか目にすることができないので、大変よかった」「料治コレクションの「魯山人への八一書き込み」が面白かった」など、魯山人の書画に対する八一の鋭い批判に彼の人柄が表れて、関心が持てたようだ。アンケート集計による展示評価も高かった。期間中、当館元学芸員と現職学芸員の 3 人による鼎談を企画。学芸員が展覧会を企画する時の苦労や喜びなど裏側の話が聞けて良かったと満足度も高かった。

② 開館 50 周年記念 會津八一 晩年の輝き

会 期：令和 7 年 7 月 1 日（火）～9 月 23 日（祝）

開催日数：73 日間 簡易図録 30 冊販売

入館者数：1, 2 1 8 人（前年度＝夏「野中吟雪館長プロデュース 富岡鐵齋没後 100 年記念 鐵齋・八一の文人世界」1, 5 0 3 人）

開館 50 周年を記念して、晩年の會津八一の活動に焦点を当てた企画展。昭和 20 年 5 月から約 1 年 2 カ月を過ごした新潟県北蒲原郡中条町（現・胎内市）は、東京の自宅が全焼し、逃れてきた地であり、養女きい子と死別するなど、厳しい時代だった。きい子の死の際に詠んだ絶唱「山鳩」21 首の原稿や、丹呉家など親戚に送った書簡、戦時中の八一の生活状況が見える作品資料を展示した。令和 7 年は戦後 80 年の節目の年にあたり、戦後の八一の想いをうかがわせる、胎内市所蔵《自由創新》、新潟縣護國神社所蔵《山河慟哭》などの作品も展示し、来館者から「苦難から立ち上がろうとする人間・八一に出会えた」との声もあった。また、戦後、昭和 22 年に刊行した書画集『遊神帖』掲載作品や序文の草稿、終の棲家となった新潟市南浜通での創作活動も紹介した。さらに、『遊神帖』や歌集『寒燈集』など、戦後に刊行した八一の書籍を展示室内で閲覧可能にし、来館者が実際に触れられるように工夫した。アンケートでは、上記の通り、戦中戦後の八一の心情がわかる展示だったという感想をいただいた。

③ 開館 50 周年記念 ベスト・オブ 會津八一

同時開催：第 19 回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテスト入賞入選作品展

会 期：令和 7 年 12 月 16 日（火）～令和 8 年 3 月 22 日（日）開催日数 78 日間。簡易図録 35 冊販売
入館者数：1, 0 8 9 人（前年度＝冬「八一を知る八一がわかる－独往の書の秘密－」1, 1 2 7 人）

開館 5 0 周年を記念し、当館が所蔵する 1 万 2 千点余の作品資料の中から、来館者や講演会参加者へのアンケート結果を踏まえ、人気の高かった八一作品を展示。また、当館職員が心惹かれる作品や、公開の機会が少ない遺品類など、広く八一の足跡を紹介した。さらに、八一の教え子で、日本テニス界創成期のスター選手だった福田雅之助（1897～1974）旧蔵の八一作品も展示した。福田が策定したテニスの心得「庭球規」は、漫画『エースをねらえ』で引用され、松岡修造氏がウィンブルドンでベスト 8 入りを決めた試合で叫んだことでも知られている。福田と八一との関係に驚いた来館者も多かった。アンケート結果で大まかな展示内容を決めたが、結果的に、かな、漢字、絵のある作品など様々な種類の作品が選ばれ、比較的バランスの良い展示構成となった。アンケートでは「ベスト」という題名通り、見たい作品が多かったという声をいただいた。同時開催として、第 19 回を迎えた「會津八一の歌を映す秋艸道人賞写真コンテスト」の入賞入選作品展も行った。

（展示に対する評価）＝入館者アンケート結果（○は好評、△は不評）

回答者 373 名（回答率 7.1%） ※前年 412 名 回答率 7.7%

展覧会名	作品解説の評価	展示量の評価	全体的評価
會津八一とコレクション	○ 92% △ 6%	○ 92% △ 6%	○98 %（とても良かった 66%、良かった 32%） 普通 2%
會津八一記念館の半世紀	○ 98% △ 2%	○ 89% △ 11%	○100%（とても良かった 75%、良かった 25%） 普通 0%
晩年の輝き	○ 92% △ 7%	○ 93% △ 7%	○98%（とても良かった 69%、良かった 29%） 普通 2%
ベスト・オブ・會津八一	○ 94% △ 5%	○ 92% △ 8%	○97%（とても良かった 66%、良かった 31%） 普通 3%
合計	○ 93.8%△5.0%	○92.2% △7.2%	○98%（とても良かった 68%、良かった 30%） 普通 1.8%

（接客に対する評価）良い 74.2% 普通 23.5% 悪い or 無回答 2.1%

（主な来館者）※当館理事、評議員は除く

4 月＝美術史家・横山秀樹氏（1 日）、書家・山田修也氏（2 日）、里仙社長・佐藤伸一氏（5 日）、書家・佐藤雅風氏（6 日）、BSNホールディングス名誉会長・竹石松次氏（16 日）、京都府立京都学 歴彩館課長・若林正博氏（18 日）、書家・佐藤奎玉氏（20 日）、新潟第一高校校長・藤澤健一氏（26 日）

5 月＝新潟第一中学・高校教諭・星憲一郎氏（3 日）、新潟県立文書館副館長・本井晴信氏、一般財団法人佐渡文化財団課長・伊里浩氏（4 日）、文信堂会長・西村俊男氏（6 日）、雪梁舎美術館理事長・捧実穂氏（9 日）、実業家渡辺湖畔の親族・渡辺亮氏（11 日）、Accesible Niigata・殖栗寛倫氏（14 日）、新潟市樋口記念美術館館長・橋本博文氏（16 日）、ウィザップ・鈴木達也氏、古俣春奈氏（20 日）

6 月＝新潟県立長岡農業高校教諭・小黑哲也氏（1 日）、元二玄社部長・高島義彦氏、新潟県立新潟東高校教諭・小川貴史氏、千葉県立市原八幡高等学校教諭・本多和宏氏（7 日）、寄贈者岡井一子氏（8 日）、佐久間書店店主親族・青木由実氏、書家・小林未咲氏（12 日）、早稲田大学・米本友梨江氏、てんゆう花高橋裕子氏（15 日）、元新潟市文化政策課長・塚原進氏、新潟市立小新中学校教諭・荻原誠一氏（22 日）

7 月＝絵手紙講師・丸山節子氏、新潟国際情報大学社会連携室室長補佐・小野塚明子氏（2 日）、書家・丹羽芝水氏、全日本書芸文化院・河合菖汀氏（6 日）、中条會津八一会会長・丹呉庸平氏、江戸千家元家元川上名心氏（16 日）、書家・和田紫陽氏（18 日）、早稲田大学教育学部非常勤講師藤原秀之氏、新発田稲門会浜崎隆志氏（20 日）

8 月＝豊田市博物館学芸員・倉林重幸氏（6 日）、新潟眼鏡院社長上田茂氏、NSG 会長・池田弘氏（24 日）、前独立書人団理事長・中川恭司氏（26 日）、新潟市立新津第二中学校教諭甲田治氏（30 日）

9 月＝前全国良寛会会長・長谷川義明氏、書家・堀田一逕氏（11 日）、新潟県書道協会・柿本久琴氏（17 日）
書家・小林畦水氏（20 日）、考古堂会長・柳本雄司氏（23 日）

10月＝寄贈者・小林時夫氏、書家・大井岳陵氏（4日）、興福寺寺務老院・多川俊映師（5日）、日本美術院特待・浦上義昭氏、公認会計士・植木謙治氏、税理士・赤塚弘晃氏（8日）書家・伊藤省風氏（12日）、元新潟市美術館学芸員・神田直子氏（13日）、にいがた観光親善大使・二宮絵里子氏（13日）、俳優、書家・松村雄基氏（18日）、寄贈者・天草草平夫妻（22日）、寄贈者・長道雄氏（23日）絵手紙講師・高山久美子氏（26日）

11月＝新潟市長・中原八一氏、絵手紙講師・千田順子氏（5日）、フリーアナウンサー・中津川英子氏（11日）、芸術新聞社・佐竹伽寿真氏（12日）、新潟市歴史博物館館長・坂井秀弥氏（13日）、刻字家・岩波健一氏（14日）、早稲田大学會津八一記念博物館館長・肥田路美氏（15日）、書家・成田沙夕氏（23日）、長岡市栃尾美術館館長・諏佐志保氏（27日）

12月＝東京外国語大学名誉教授・村尾誠一氏、写真家・浅井愼平氏、仏像写真家・若松保広氏（2日）、書家・今井昭友氏、木下慶香氏、新潟大学人文学部准教授・中本真人氏（2日）、新潟県立新潟高校教諭・松本直美氏、新潟市北区郷土博物館学芸員・大森慎子氏（4日）、新潟市立新潟小学校教諭・内山雅俊氏（7日）、北方文化博物館前理事長・伊藤勝也氏（23日）

8年1月＝十日町市博物館・石原正政氏、新潟絵屋・田代早苗氏（10日）、書家・菊田幸子氏（11日）、書家・樋口志保氏（14日）、新潟市立坂井輪中学校教諭・寺本正和氏（17日）、信濃毎日新聞記者・上野氏（25日）

2月＝東海学院大学教授・加藤孝男氏（1日）、寄贈者・上村静子氏（6日）、新潟県立新潟西高校・高谷広子氏（8日）、書家・町田玄洞氏、水野澄篁氏（13日）、ゆいぽーと小川弘幸氏、シネウィンド代表齋藤正行氏（14日）、新潟県立新井高校教諭・成田年樹氏（21日）、書家・桑山戯魚氏（25日）、北日本書芸院、書家・菅野満里子氏（26日）

3月＝書家・木伏清泉氏（1日）、読売新聞社編集局文化部記者・星野誠氏（5日）、新潟県書道協会・坂井真知子氏（7日）、書家・今井正舟氏（8日）、書壇院、書家・岩田佳香氏（17日）、キタック会長・中山輝也氏、高志学園高等学校教諭・長嶋茂氏（19日）、寄贈者・福田謙氏、新潟市立小新中学校教諭・萩原誠一氏（20日）

（イ）講演会事業

【記念館自主企画】

開館50周年記念連続講演会（有料 各回1,000円）

第1回 テーマ：「會津八一の書の真価」

講師：角田勝久氏（新潟大学教授）

日時：令和7年9月21日（日）午後2時～3時半

会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：94人

第2回 テーマ：「會津八一の奈良」

講師：多川俊映師（興福寺寺務老院）

日時：令和7年10月5日（日）午後2時～3時半

会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：76人

第3回 テーマ：「奈良美術と會津八一」

講師：大橋一章氏（元早稲田大学會津八一記念博物館館長）

日時：令和7年11月24日（月振休）午後2時～3時半

会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：120人

第4回 テーマ：「日本の書の流れ～平安から會津八一まで～」

講師：笠嶋忠幸氏（出光美術館学芸部長・上席学芸員）

日時：令和8年1月18日（日）午後2時～3時半

会場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：84人

第5回 テーマ：「文人 會津八一の魅力」

講 師：野中浩俊新潟市會津八一記念館館長

日 時：令和8年3月8日（日）午後2時～3時半

会 場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：84人

特別展関連イベント

トークイベント（有料1,500円）

テーマ：「本物へのこだわり」

対 談：松村雄基氏（俳優）、角田勝久氏（新潟大学教授）

日 時：令和7年10月19日（日）午後2時～3時半

会 場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：74人

春季企画展関連イベント（有料 500円）

テーマ：「會津八一記念館の学芸員が語る展覧会の裏側」

講 師：近藤悠子氏（元当館学芸員）喜嶋奈津代（当館主査学芸員）、湯浅健次郎（当館学芸員）

日 時：令和7年5月22日（木）午後2時～3時半

会 場：日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

入場者：64人

（ウ） 普及活動事業

① 八一祭 高校生拓本大会（無料）

講演者：小黑哲也氏（新潟県立長岡農業高校教諭）、喜嶋奈津代（当館主査学芸員）

日 時：令和7年7月31日（木）午前9時半～午後12時

会 場：そらの広場（新潟日報メディアシップ20階）

参加者：31人（新潟県内の高校6校）

② 作品解説会

新潟市會津八一記念館企画展、特別展＝講師：野中館長、喜嶋、湯浅学芸員

野中館長：令和7年5月18日（日）、8月31日（日）、10月26日（日）、令和8年3月8日（日）

学 芸 員：企画展：第2、4日曜日 特別展：毎週日曜日 午前11時～正午

③ 八一さんのいしぶみ散歩

野中館長、喜嶋学芸員同行解説

日 時：令和8年3月21日（土）午前10時～午後1時

コース：万代（メディアシップ）～上大川前通～白山～西堀～古町 約4km

参加者：19人

④ 出前講座＝その他の団体主催による講演

- ・ 4月9日（水） 講演：「會津八一の生き方～学規をもとに～」

主催：新潟南ロータリークラブ

会場：新潟グランドホテル

講師：喜嶋学芸員 80人

- ・ 5月23日（金） 講演：「會津八一 書と歌」

会場：東京学館新潟学校 2年生

講師：喜嶋学芸員 39人

- ・ 6月8日（日） 講演：「東京下落合時代の會津八一」

主催：春城会

会場：コミュニティセンター瓢湖憩の家

講師：喜嶋学芸員 29人

- ・ 7月1日（火） 講演：「會津八一の魅力と修学旅行案内」

会場：新潟高校 2年生

講師：湯浅学芸員 350人

- ・ 8月23日（土）講演：「會津八一とコレクション」
主催：荻川コミュニティ振興協議会
会場：荻川コミュニティセンター

講師：喜嶋学芸員 23 人

- ・ 9月18日（木）講演：「名誉市民會津八一の魅力」
主催：よつ葉大学（築地地区）
会場：胎内市築地農村環境改善センター

講師：湯浅学芸員 3 人

- ・ 11月11日（火）講演：「會津八一記念館、會津八一紹介」（新潟大学法学部講義 「新潟市の行政」）
主催：新潟大学法学部
会場：新潟大学

講師：湯浅学芸員 43 人

- ・ 11月17日（月）講演：「名誉市民會津八一の魅力」
主催：生き生き男のセミナー（坂井東）
会場：坂井輪公民館

講師：湯浅学芸員 20 人

- ・ 11月21日（金）講演：「名誉市民會津八一の魅力」
主催：関屋モーニングサロン
会場：新潟市関屋地区公民館

講師：喜嶋学芸員 30 人

- ・ 11月21日（金）講演：「開館 50 年と「ベスト・オブ・會津八一」」
主催：秋艸会
会場：瑞光寺

講師：湯浅学芸員 30 人

令和 8 年

- ・ 1月16日（金）講演：「會津八一と短歌」
会場：胎内市立築地小学校 6 年生
- ・ 1月22日（木）講演：「會津八一の生き方～学規をもとに～」
主催：新潟西ロータリークラブ
会場：ホテル日航新潟
- ・ 3月14日（土）講演：「會津八一の話」
主催：とよさか中高年教養大学
会場：葛塚コミュニティーセンター

講師：喜嶋学芸員 29 人

講師：喜嶋学芸員 30 人

講師：湯浅学芸員 35 人

⑤ 18 回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

会 場	開催期間	備考
1 いかるがホール（奈良県斑鳩町）	4 月 2 日～20 日	入賞作品 7 点＋県外入選者
2 奈良県立図書情報館	5 月 1 日～18 日	入賞入選 30 点
3 中村屋サロン美術館（東京都）	6 月 4 日～7 月 13 日	入選入賞 30 点
4 三千院（京都市）	8 月 5 日～31 日	入賞作品 7 点
5 高松市市民活動センター（香川県）	10 月 3 日～30 日	入賞入選 30 点など
6 胎内市産業文化会館	11 月 7 日～9 日	入賞入選 30 点など

（エ）学習講座

- ・ 會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏（文芸評論家）
砂丘館 毎月第 1 土曜日 受講者 11 人

(オ) イベント

・「會津八一の歌を映す」第19回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費 2,888,475 円）

公募期間 4月から11月（作品搬入11月1日～12日）
応募点数 132点（前回135点）
応募人数 87人〈県内57人 県外30人〉（前回87人）
審査委員 浅井慎平（委員長）、若松保広、村尾誠一氏、野中浩俊館長の4氏
審査会 12月2日（火） 14時～17時 日報ホール
審査結果 秋艸道人賞に新潟県胎内市の羽田寿弘さん
奨励賞は7点（県内5人）、入選は23点（県内15人）
授賞式 作品講評会＝令和8年2月8日（日） 聴講者40人

(カ) 鑑定会

（経費 260,818 円）

春の部	令和7年 6月 7日（土）	総点数10点	認定数 3点	収入190,000円
秋の部	令和7年10月25日（土）	総点数 8点	認定数 5点	収入230,000円

(キ) 新収蔵品

○寄贈 會津八一の墨蹟	38点
會津八一・齋藤三郎書き入れ陶器	3点
會津八一・中田瑞穂書画貼り交ぜ屏風	1点
會津八一・棟方志功合作 扇子	1点
錢瘦鐵の書画（會津八一箱書き）	1点
會津八一の書簡	83通

（窪田章一郎宛、小林力三宛、中野四郎太宛、天野太郎宛、上司海雲宛、小柳誠宛）

寄贈＝合計127点

(ク) 販売活動

・「学規」割引セール 実施期間7年度（7年4-5月、8年2-3月）
額装11点 色紙7点 販売合計193,550円

(ケ) 広報活動

①新聞

〔新潟日報〕

＜記事＞48回（令和6年度・記事39回）

「展覧会へようこそ」3回、特別展「會津八一とコレクション」作品解説3回（朝刊文化欄）

ほかに特集記事（特別展、写真コンテスト入賞作品紹介）、企画展や會津八一の話題、募集・お知らせ

＜広告＞70回（令和6年度88回）

・企画展、特別展	62回〈新潟日報朝刊〉（令和6年度72回）
・「学規」販売広告	6回〈同〉（令和6年度12回）
・名刺広告	1回＝新年名刺広告（令和6年度1回）
・鑑定会広告	1回（令和6年度1回）

②テレビ、ラジオ

〔BSN新潟放送〕

○テレビ：特別展関連「BSN ニュース ひるおび内ローカルニュース」

・令和7年10月2日（水） 11:49～ 放送「會津八一とコレクション」展覧会開幕

○CM：テレビ 245本（令和6年度223本） 放映本数の表示は今年度まで終了。
・ 9/17～ 9/30 「會津ハートコレクション」告知 15秒（55本）
・ 10/1～ 12/8 「會津ハートコレクション」開催中 15秒（190本）

ラジオ 255本（令和6年度327本）
・ 9/18～ 9/30 「會津ハートコレクション」告知 30秒（37本）
・ 10/1～ 12/7 「會津ハートコレクション」開催中 30秒（218本）

ラジオ番組出演 1回（令和6年度1回）
・ 10/18（土）12時～12時30分「立石勇生サニーサイド」生放送
松村雄基氏、角田勝久氏出演

③ 〔新潟市〕
○市報にいがた 5回（令和6年度16回）
展覧会情報＝イベント募集など＝5回

○新潟市公式LINE 9回配信（令和6年度20回）
展覧会情報＝3回、イベント募集＝6回（講演会、トークイベントの募集や無料開放のお知らせなど）

（コ）学校団体見学

19校＝184人＝中学校10校、高校8校、大学1校
（令和6年度＝27校320人＝小学校0校、中学校18校、高校8校、大学1校）

5月13日	新潟市立巻西中学校	11人
5月14日	新潟市立曾ノ木中学校	5人
7月1日	新潟市立五十嵐中学校	11人
7月3日	新潟市立鳥屋野中学校	5人
7月24日	埼玉県立大宮光陵高校	71人
7月31日	新潟県立新潟高校	9人
	新潟県立新潟東高校	4人
	新潟中越高校	3人
	東京学館新潟高校	4人
	新潟県立新津南高校	3人
	新潟県立新潟江南高校	8人
9月17日	新潟市立上山中学校	3人
9月18日	新潟市立新津第五中学校	4人
9月21日	東京大学	7人
10月2日	新潟市立新津第五中学校	3人
10月3日	新潟市立新津第二中学校	12人
10月7日	新潟市立中之口中学校	5人
10月23日	新潟市立小須戸中学校	2人
12月4日	新潟県立新潟高校	14人